

平成21年度学校評価「浜松市共通項目」(中学校)の結果と考察

本市では、学校評価の「浜松市共通項目」10項目(表1)について、生徒、保護者、教員に対しアンケート調査をした。項目ごとに「4 とてもそう思う 3 まあそう思う 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない」の回答を求め、各学校からその平均値の報告を受けた。結果を分析し、その考察を示す。

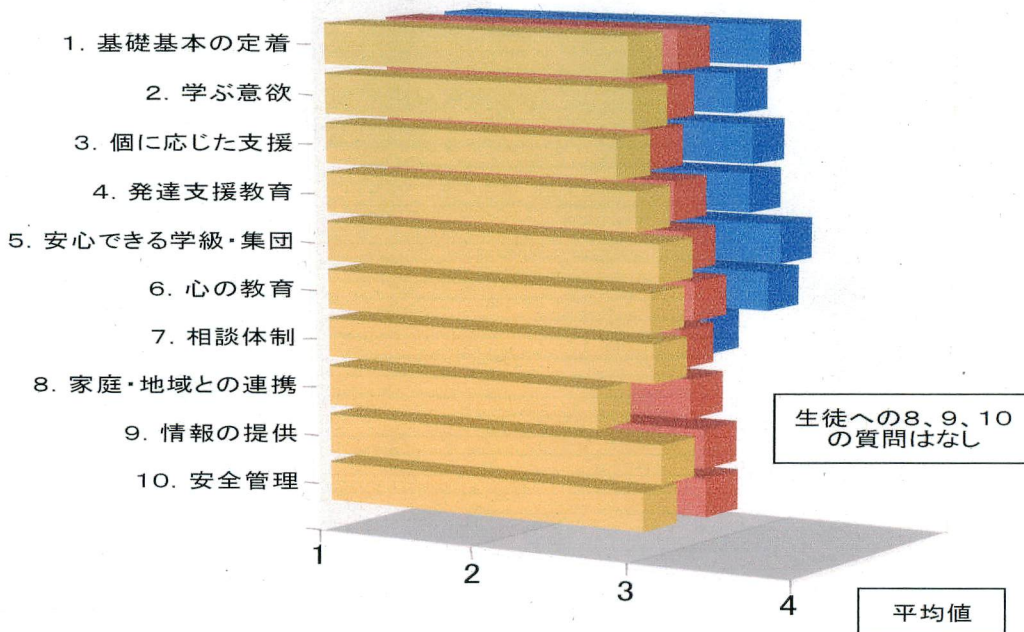
表1:学校評価「浜松市共通項目」とその結果

評価項目	生徒	保護者	教員
1. 基礎基本の定着	3. 1 1	※2. 8 8	2. 9 3
2. 学ぶ意欲を向上させる授業の工夫	※2. 9 0	※2. 7 8	※2. 9 6
3. 個に応じた支援	3. 0 1	※2. 7 1	2. 8 6
4. 子ども理解を基盤とした発達支援教育	※2. 9 9	※2. 8 6	2. 9 8
5. 安心できる学級・集団づくり	3. 1 9	※2. 9 2	3. 1 2
6. 心の教育(生命尊重・規範意識の醸成)	3. 1 1	※2. 9 9	3. 0 7
7. 相談体制	※2. 7 3	※2. 9 1	※3. 0 9
8. 家庭・地域との連携	調査なし	※2. 9 7	2. 7 4
9. 情報の提供	調査なし	3. 0 6	3. 1 4
10. 安全管理	調査なし	3. 0 7	3. 0 3

※は、注目すべき数字

グラフ1:学校評価「浜松市共通項目」の調査対象別分布

■ 生徒 ■ 保護者 ■ 教員

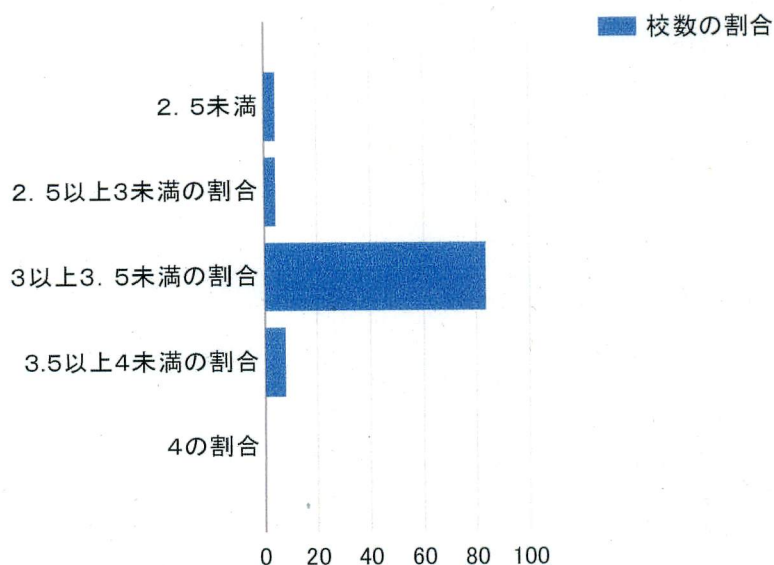


＜生徒のアンケート結果に対する考察＞

表1、グラフ1から分かるように、生徒の評価は、保護者や教員と比べて高い。中でも、「基礎基本の定着」「個に応じた支援」「安心できる学級・集団づくり」「心の教育(生命尊重・規範意識の醸成)」の4項目に関しては「3」以上を示し、満足感を得ていると言える。特に、「安心できる学級づくり」に関する評価は生徒、教員ともに高く、両者の努力によって、学級や集団がよい状態であることがうかがえる。しかし、グラフ2から分かるように「3以上3.5未満」の割合が多いため、引き続き努力していくことが望まれる。

さて、表1、グラフ1によると「学ぶ意欲を向上させる授業の工夫」「子ども理解を基

グラフ2:「安心できる学級づくり」に関する生徒の考え



盤とした発達支援教育」
「相談体制」の項目では、「3」を下回っており、満足度が低いことがうかがえる。これらは、前年度にも評価が低かったワースト3の項目であり、今回の調査では、「学ぶ意欲を向上させる授業の工夫」「子ども理解を基盤とした発達支援教育」でさらに数値低下が見られた。

今後は、さらに積極的に授業研究を行い、生徒が夢中になって取り組む授業を実現させたり、発達支援教育の研修を行い、生徒一人一人に向き合う指導を実現させたりすることが必要である。

<保護者のアンケート結果に対する考察>

表2:各項目で「分からない」と回答した保護者割合の差

	中学校	小学校	差
基礎基本の定着	7.1	3.37	-3.73
学ぶ意欲	8.93	4.07	-4.86
個に応じた支援	8.08	4.8	-3.28
子ども理解	5.5	3.76	-1.74
安心できる学級・集団	5.08	6.1	1.02
心の教育	4.31	3.13	-1.18
相談体制	2.68	2.15	-0.53
家庭・地域との連携	3.36	2.73	-0.63
情報の提供	2.52	2.16	-0.36
安全管理	2.78	1.68	-1.1

表1, グラフ1から分かるように保護者の評価は、生徒や教員よりも低い。また、表2は、各項目の質問に対し、「分からない」と回答した保護者の割合を示したものである。これによると、中学校では「分からない」と答える保護者の割合がほとんどの項目で小学校よりも増えている。

表1にあるように、保護者は「情報提供」で「3」以上を示しており、便りやホームページ等による学校から発信される情報には、ある程度満足しているようである。それにもかかわらず学校の教育活動に対して評価が低かったり、「分からない」と回答したりする原因の一つは、保護者の学校の教育活動への参加意識の低さではないかと考える。

今後、学校は、学校の教育活動に積極的に参加することや、学校での出来事を共有するために家庭で生徒と保護者がコミュニケーションをとることをこれまで以上に呼び掛けたりしていく必要があるだろう。

<教員のアンケート結果に対する考察>

表3:2つの項目における教師と生徒の意識の差

	学ぶ意欲を向上させる授業の工夫	相談体制
教員	2.96	3.09
生徒	2.90	2.73
教員-生徒	+0.06	+0.36

小学校では、評価が最も高いのは児童であり、その後に保護者、教員と続いている。中学校では、評価が最も高いのは生徒であり、その後に教員、保護者と続いている。

教員が自らを高く評価することは、実践してきた教育活動に対して充実感を得ている証であり、誇らしいことである。しかし、表3に示す「学ぶ意欲を向上させる授業の工夫」と「相談体制」に

関しては、注意が必要である。ここでは、教員評価が、生徒評価を上回っている。このようなことが生じると、生徒は満足感を味わっていないのに、教員がそれ以上努力しなくなるということが起こりかねない。教員は、低い目標ではなく、常に高い目標を掲げ、授業をよりよくしていこうという気持ちを持たなければならない。